



## 2023年3月期 第3四半期決算短信〔日本基準〕（連結）

2023年2月10日

上場取引所 東

上場会社名 株式会社フォーバル  
 コード番号 8275 URL <https://www.forval.co.jp>  
 代表者 (役職名) 代表取締役社長 (氏名) 中島 将典  
 問合せ先責任者 (役職名) 常務取締役 (氏名) 加藤 康二 TEL 03-3498-1541  
 四半期報告書提出予定日 2023年2月10日 配当支払開始予定日 ー  
 四半期決算補足説明資料作成の有無：無  
 四半期決算説明会開催の有無：無

(百万円未満切捨て)

### 1. 2023年3月期第3四半期の連結業績（2022年4月1日～2022年12月31日）

#### (1) 連結経営成績（累計）

(%表示は、対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属する 四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
2023年3月期第3四半期	42,100	16.8	1,078	△34.2	1,305	△25.4	603	△47.5
2022年3月期第3四半期	36,050	0.1	1,637	△5.5	1,749	11.3	1,148	39.8

(注) 包括利益 2023年3月期第3四半期 731百万円 (△39.7%) 2022年3月期第3四半期 1,214百万円 (3.4%)

	1株当たり 四半期純利益	潜在株式調整後 1株当たり 四半期純利益
	円 銭	円 銭
2023年3月期第3四半期	23.51	23.50
2022年3月期第3四半期	44.87	44.87

#### (2) 連結財政状態

	総資産	純資産	自己資本比率
	百万円	百万円	%
2023年3月期第3四半期	32,866	14,445	41.0
2022年3月期	32,498	14,372	41.3

(参考) 自己資本 2023年3月期第3四半期 13,479百万円 2022年3月期 13,421百万円

### 2. 配当の状況

	年間配当金				
	第1四半期末	第2四半期末	第3四半期末	期末	合計
	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭	円 銭
2022年3月期	—	0.00	—	26.00	26.00
2023年3月期	—	0.00	—	—	—
2023年3月期（予想）	—	—	—	27.00	27.00

(注) 直近に公表されている配当予想からの修正の有無：無

### 3. 2023年3月期の連結業績予想（2022年4月1日～2023年3月31日）

(%表示は、対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		親会社株主に帰属 する当期純利益		1株当たり 当期純利益
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円 銭
通期	54,000	4.8	2,800	4.2	3,000	5.1	1,900	3.4	74.12

(注) 直近に公表されている業績予想からの修正の有無：無

※ 注記事項

(1) 当四半期連結累計期間における重要な子会社の異動（連結範囲の変更を伴う特定子会社の異動）：無  
新規 一社（社名）、除外 一社（社名）

(2) 四半期連結財務諸表の作成に特有の会計処理の適用：無

(3) 会計方針の変更・会計上の見積りの変更・修正再表示

- ① 会計基準等の改正に伴う会計方針の変更 : 有
- ② ①以外の会計方針の変更 : 無
- ③ 会計上の見積りの変更 : 無
- ④ 修正再表示 : 無

(4) 発行済株式数（普通株式）

① 期末発行済株式数（自己株式を含む）	2023年3月期3Q	27,732,622株	2022年3月期	27,732,622株
② 期末自己株式数	2023年3月期3Q	2,022,477株	2022年3月期	2,097,577株
③ 期中平均株式数（四半期累計）	2023年3月期3Q	25,664,362株	2022年3月期3Q	25,607,027株

※ 四半期決算短信は公認会計士又は監査法人の四半期レビューの対象外です

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

（将来に関する記述等についてのご注意）

本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、その達成を当社として約束する趣旨のものではありません。また、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。業績予想の前提となる条件及び業績予想のご利用にあたっての注意事項等については、添付資料P.3「1. 当四半期決算に関する定性的情報（3）連結業績予想などの将来予測情報に関する説明」をご覧ください。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報 .....	2
(1) 経営成績に関する説明 .....	2
(2) 財政状態に関する説明 .....	3
(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明 .....	3
2. 四半期連結財務諸表及び主な注記 .....	4
(1) 四半期連結貸借対照表 .....	4
(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書 .....	6
四半期連結損益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	6
四半期連結包括利益計算書	
第3四半期連結累計期間 .....	7
(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項 .....	8
(継続企業の前提に関する注記) .....	8
(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記) .....	8
(会計方針の変更) .....	8
(セグメント情報等) .....	9

## 1. 当四半期決算に関する定性的情報

### (1) 経営成績に関する説明

当第3四半期連結累計期間におけるわが国経済は、ウクライナ情勢等を受けた資源価格上昇の影響を受ける一方で、新型コロナウイルス感染症や供給制約の影響が徐々に和らぐ中で、輸出や生産は堅調に推移し、設備投資も緩やかに増加しました。また、雇用・所得環境も緩やかに改善し、個人消費も新型コロナウイルス感染症の影響が和らぐ中でサービス消費を中心に緩やかに増加しました。

また、当社グループの事業領域である情報通信分野においては、クラウドやビッグデータ、IoT、AIなどを活用したサービスが拡大しています。

このような経営環境下、当社グループは「次世代経営コンサルタント」として企業経営を支援する集団となり、中小・小規模企業の利益に貢献することを目指し、「情報通信の知識・技術を駆使した経営コンサルティングサービス（情報通信）」、「海外マーケットを独自ノウハウで取り込む経営コンサルティングサービス（海外）」、「環境に配慮した最先端の経営コンサルティングサービス（環境）」、「次世代経営に必要な人材を育てる経営コンサルティングサービス（人材・教育）」、「企業のライフサイクルに対応した経営コンサルティングサービス（起業・事業承継）」の5分野において他社との差別化を図り、質の高いサービスを提供するためにM&Aも活用しながら事業の拡大に取り組んでいます。

現在は、岸田内閣の主要政策である未来を切り拓く「新しい資本主義」―成長と分配の好循環―に則り、中小・小規模企業のGX（グリーントランスフォーメーション）及びDX（デジタルトランスフォーメーション）（以下「GD X」）を推進する伴走型アドバイザーとしての確固たる地位を確立していくことに注力しています。その実現に向けてF-Japan戦略を推進し、GD Xアドバイザーの創造、GD Xアドバイザー向けの新たな貸出ビジネスの創造、中小企業経営のための情報分析プラットフォーム「きづなPARK」の質的・量的拡充、中小企業に対するスコアリングの実現など、事業基盤の強化にスピード感を持って取り組んでいます。

このような状況下、当社グループの当第3四半期連結累計期間の経営成績は以下のようになりました。

当第3四半期連結累計期間の経営成績は、中小・小規模企業におけるDX推進の機運の高まりを受けてアイコンサービスが順調に拡大したことに加え、GXに対する意識の高まりを受けて環境に優しい新電力サービスが増加し、また、新たに連結に加わったグループ会社の寄与もあり、売上高は前年同期に比べ6,050百万円増加し、42,100百万円（前年同期比16.8%増）となりました。

利益面では売上総利益が電力の仕入価格上昇の影響を受けて前年同期に比べ985百万円増加（前年同期比7.4%増）にとどまったほか、販売費及び一般管理費は事業拡大に伴う人員増強の影響等で前年同期に比べ1,544百万円増加（前年同期比13.2%増）した結果、営業利益は1,078百万円（前年同期比34.2%減）、経常利益は貸倒引当金繰入額の減少等により1,305百万円（前年同期比25.4%減）、親会社株主に帰属する四半期純利益は前年同期は事業譲渡益などの特別利益を445百万円計上していたことで603百万円（前年同期比47.5%減）となりました。

なお、新電力サービスについては、電気料金のうち発電燃料の価格で変動する燃料費調整額について、平時を想定した約款により単価に上限を設けていたため、同料金に係る仕入価格がウクライナ情勢等による発電燃料の高騰を受けて、その上限を上回った事で利益減少要因となってしまいましたが、当第3四半期より当該約款を改定し上限の撤廃等、同料金の体系を見直して通期における影響範囲の最小化を図っています。

セグメントごとの経営成績は次のとおりであります。

#### <フォーバルビジネスグループ>

アイコンサービスやセキュリティ関連が増加したほか、新たに連結に加わったグループ会社の寄与により、売上高は20,248百万円（前年同期比20.4%増）、セグメント利益は883百万円（前年同期比17.8%増）となりました。

#### <フォーバルテレコムビジネスグループ>

新電力サービスが増加した一方で、ISPサービス等が減少した結果、売上高は17,562百万円（前年同期比13.5%増）、電力の仕入価格上昇の影響でセグメント利益は228百万円（前年同期比72.3%減）となりました。

#### <総合環境コンサルティングビジネスグループ>

産業用太陽光発電システムが減少する一方で、住宅用太陽光発電システム等が増加した結果、売上高は2,723百万円（前年同期比15.5%増）、セグメント損失は64百万円（前年同期はセグメント損失33百万円）となりました。

#### <その他事業グループ>

教育事業やITエンジニアの派遣事業が堅調に推移した結果、売上高は1,565百万円（前年同期比11.8%増）、セグメント利益は222百万円（前年同期比13.8%増）となりました。

(2) 財政状態に関する説明

当第3四半期連結会計期間末における総資産は、前連結会計年度末に比べ368百万円増加し32,866百万円となりました。

流動資産は22,193百万円となり、前連結会計年度末比426百万円の減少となりました。これは主として商品及び製品が325百万円増加したのに対し、現金及び預金が203百万円、受取手形、売掛金及び契約資産が414百万円、未収入金が241百万円減少したことによるものです。

固定資産は10,672百万円となり、前連結会計年度末比794百万円の増加となりました。これは主として有形固定資産が396百万円、投資有価証券の増加により投資その他の資産が347百万円増加したことによるものです。

流動負債は15,065百万円となり、前連結会計年度末比8百万円の増加となりました。これは主として支払手形及び買掛金が420百万円、短期借入金が361百万円増加したのに対し、未払金が204百万円、未払法人税等が386百万円減少したことによるものです。

固定負債は3,355百万円となり、前連結会計年度末比286百万円の増加となりました。これは主として社債が100百万円、退職給付に係る負債が103百万円増加したことによるものです。

純資産は14,445百万円となり、前連結会計年度末比73百万円の増加となりました。これは主として親会社株主に帰属する四半期純利益603百万円に対し、配当金の支払い666百万円により株主資本が22百万円、その他の包括利益累計額が34百万円増加したことによるものです。

(3) 連結業績予想などの将来予測情報に関する説明

連結業績は現時点で概ね想定した範囲内で推移しており、2022年5月13日に公表しました連結業績予想に変更はありません。

2. 四半期連結財務諸表及び主な注記

(1) 四半期連結貸借対照表

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
<b>資産の部</b>		
流動資産		
現金及び預金	10,171,059	9,967,283
受取手形、売掛金及び契約資産	7,943,844	7,528,871
リース投資資産	166,686	187,499
商品及び製品	637,992	963,613
仕掛品	83,567	84,625
原材料及び貯蔵品	422,601	293,071
未収入金	1,899,009	1,657,088
その他	1,407,487	1,603,768
貸倒引当金	△111,942	△91,962
流動資産合計	22,620,307	22,193,860
固定資産		
有形固定資産	1,231,287	1,628,214
無形固定資産		
のれん	1,977,388	1,827,198
その他	1,034,005	1,234,923
無形固定資産合計	3,011,394	3,062,122
投資その他の資産		
投資有価証券	1,851,596	2,247,795
破産更生債権等	2,474,275	2,319,088
繰延税金資産	2,080,320	1,958,152
その他	1,678,188	1,753,894
貸倒引当金	△2,448,854	△2,296,288
投資その他の資産合計	5,635,525	5,982,643
固定資産合計	9,878,207	10,672,980
資産合計	32,498,514	32,866,841
<b>負債の部</b>		
流動負債		
支払手形及び買掛金	5,755,316	6,175,451
短期借入金	2,238,028	2,599,181
未払金	2,872,396	2,667,507
未払法人税等	612,093	225,156
賞与引当金	703,825	686,475
役員賞与引当金	207,709	144,945
その他	2,667,513	2,566,669
流動負債合計	15,056,883	15,065,388
固定負債		
社債	—	100,000
長期借入金	200,504	210,585
退職給付に係る負債	2,685,605	2,788,836
役員退職慰労引当金	61,191	65,543
繰延税金負債	11,665	7,140
持分法適用に伴う負債	43,716	35,050
その他	66,405	148,549
固定負債合計	3,069,089	3,355,705
負債合計	18,125,973	18,421,093

(単位：千円)

	前連結会計年度 (2022年3月31日)	当第3四半期連結会計期間 (2022年12月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	4,150,294	4,150,294
資本剰余金	2,525,731	2,567,229
利益剰余金	7,394,969	7,331,721
自己株式	△1,238,827	△1,194,473
株主資本合計	12,832,168	12,854,772
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	601,234	628,179
為替換算調整勘定	7,081	12,459
退職給付に係る調整累計額	△18,490	△15,879
その他の包括利益累計額合計	589,824	624,759
新株予約権	28,136	22,007
非支配株主持分	922,411	944,208
純資産合計	14,372,541	14,445,747
負債純資産合計	32,498,514	32,866,841

(2) 四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書  
 (四半期連結損益計算書)  
 (第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
売上高	36,050,292	42,100,736
売上原価	22,750,127	27,815,162
売上総利益	13,300,165	14,285,574
販売費及び一般管理費	11,662,385	13,207,307
営業利益	1,637,779	1,078,266
営業外収益		
受取利息	2,929	3,641
受取配当金	25,116	27,454
持分法による投資利益	108,934	104,317
その他	60,675	110,980
営業外収益合計	197,655	246,393
営業外費用		
支払利息	17,680	13,588
貸倒引当金繰入額	59,030	—
その他	9,303	5,551
営業外費用合計	86,015	19,140
経常利益	1,749,419	1,305,520
特別利益		
固定資産売却益	71,857	56
負ののれん発生益	—	57,844
事業譲渡益	354,652	—
その他	19,405	8,838
特別利益合計	445,915	66,739
特別損失		
固定資産除売却損	19,274	5,250
減損損失	72	72
その他	1,871	70
特別損失合計	21,218	5,393
税金等調整前四半期純利益	2,174,117	1,366,866
法人税、住民税及び事業税	681,779	543,225
法人税等調整額	144,008	127,033
法人税等合計	825,788	670,259
四半期純利益	1,348,329	696,606
非支配株主に帰属する四半期純利益	199,401	93,344
親会社株主に帰属する四半期純利益	1,148,927	603,262



(四半期連結包括利益計算書)  
(第3四半期連結累計期間)

(単位：千円)

	前第3四半期連結累計期間 (自 2021年4月1日 至 2021年12月31日)	当第3四半期連結累計期間 (自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)
四半期純利益	1,348,329	696,606
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△152,042	26,945
退職給付に係る調整額	1,428	2,611
持分法適用会社に対する持分相当額	16,446	5,377
その他の包括利益合計	△134,168	34,934
四半期包括利益	1,214,161	731,541
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	1,014,759	638,196
非支配株主に係る四半期包括利益	199,401	93,344

(3) 四半期連結財務諸表に関する注記事項

(継続企業の前提に関する注記)

該当事項はありません。

(株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記)

該当事項はありません。

(会計方針の変更)

(時価の算定に関する会計基準等の適用)

「時価の算定に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第31号 2021年6月17日。以下「時価算定会計基準適用指針」という。)を第1四半期連結会計期間の期首から適用し、時価算定会計基準適用指針第27-2項に定める経過的な取扱いに従って、時価算定会計基準適用指針が定める新たな会計方針を将来にわたって適用することといたしました。これによる四半期連結財務諸表に与える影響は軽微であります。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第3四半期連結累計期間(自2021年4月1日至2021年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	フォーバル ビジネス グループ	フォーバルテ レコム ビジネス グループ	総合環境 コンサル ティング ビジネス グループ	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	16,824,514	15,467,959	2,357,426	34,649,900	1,400,391	36,050,292
外部顧客への売上高	16,824,514	15,467,959	2,357,426	34,649,900	1,400,391	36,050,292
セグメント間の内部 売上高又は振替高	321,280	351,251	6,327	678,859	68,906	747,765
計	17,145,795	15,819,210	2,363,754	35,328,760	1,469,298	36,798,058
セグメント利益又は損 失(△)	749,778	825,248	△33,692	1,541,334	195,600	1,736,935

(注)「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、技術者派遣事業及びIT教育サービス事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,541,334
「その他」の区分の利益	195,600
セグメント間取引消去	3,141
のれんの償却額	△102,296
四半期連結損益計算書の営業利益	1,637,779

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「フォーバルビジネスグループ」セグメントにおいて、㈱エルコムの株式を取得し、第2四半期連結会計期間より連結範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては609,244千円であります。

なお、のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額です。

Ⅱ 当第3四半期連結累計期間(自 2022年4月1日 至 2022年12月31日)

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益又は損失の金額に関する情報並びに収益の分解情報

(単位:千円)

	報告セグメント				その他 (注)	合計
	フォーバル ビジネス グループ	フォーバルテ レコム ビジネス グループ	総合環境 コンサル ティング ビジネス グループ	計		
売上高						
顧客との契約から生 じる収益	20,248,691	17,562,997	2,723,573	40,535,262	1,565,474	42,100,736
外部顧客への売上高	20,248,691	17,562,997	2,723,573	40,535,262	1,565,474	42,100,736
セグメント間の内部 売上高又は振替高	353,751	349,222	17,303	720,277	148,183	868,461
計	20,602,442	17,912,219	2,740,877	41,255,539	1,713,657	42,969,197
セグメント利益又は損 失(△)	883,583	228,591	△64,672	1,047,502	222,661	1,270,163

(注) 「その他」の区分は、報告セグメントに含まれない事業セグメントであり、技術者派遣事業及びIT教育サービス事業等を含んでおります。

2. 報告セグメントの利益又は損失の金額の合計額と四半期連結損益計算書計上額との差額及び当該差額の主な内容(差異調整に関する事項)

(単位:千円)

利益	金額
報告セグメント計	1,047,502
「その他」の区分の利益	222,661
セグメント間取引消去	2,055
のれんの償却額	△193,952
四半期連結損益計算書の営業利益	1,078,266

3. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

(のれんの金額の重要な変動)

「フォーバルビジネスグループ」セグメントにおいて、(株)アベヤス及び(株)進賢堂販売の株式を取得し、第1四半期連結会計期間より連結範囲に含めております。当該事象によるのれんの増加額は、当第3四半期連結累計期間においては89,397千円であります。

なお、のれんの金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額です。

(重要な負ののれん発生益)

「フォーバルビジネスグループ」セグメントにおいて、(株)奈良事務機の株式を取得し連結子会社としたことにより、負ののれん発生益を認識しております。当該事象による負ののれん発生益の計上額は、57,844千円であります。

なお、負ののれん発生益は特別利益のため、上記セグメント利益には含まれておりません。

また、負ののれん発生益の金額は、当第3四半期連結会計期間末において取得原価の配分が完了していないため、暫定的に算定された金額であります。